

平成25年度 妙高市教育研究会 国語部の活動報告

部長 本間 和貴 副部長 後藤 弘彦

部員数 小学校15名・中学校7名・特別支援学校2名 計24名

1 研究主題 「新学習指導要領の趣旨を生かした国語力の育成」

2 研究の概要

学習指導要領の改訂により、古典学習が我が国の伝統や文化の継承として位置づけられ、小学校1年から6年まで全学年を通して古典に親しむ学習を行うことが示された。従来までは、「古典に親しむ」目標は中学校に固有のものであったが、それが小学校までおりにてきたことになる。小学生が古典に親しむとはどのようなものなのか、授業研究や協議会・ワークショップを通して明らかにしていく。

3 研究の実際

(1) 夏の一斉研修「新教育課程伝達講習」 平成25年8月22日(木) 新井小学校

- ・小学校…教育課程実施上の課題と指導上の留意事項、言語活動の充実に関する取組のポイント等
- ・中学校…新学習指導要領全面実施2年目の教育課程編成における留意事項等
- ・発表者…鈴木晴子(新井中央小)、横田信子(妙高高原南小)、後藤弘彦(新井中)、安井直美(妙高高原中)

(2) 秋の一斉研修「授業公開及び研究協議」 平成25年11月7日(木) 妙高高原南小学校

授業者 後藤 弘彦 教諭(新井中学校)

対象 妙高高原南小学校5年生(16名)

単元名 声に出して読もう

「今も昔も～竹取物語・枕草子・平家物語～」

ねらい

- ・古典の文章を音読し、言葉の響きやリズムを味わうとともに、文章の概要を知ることができる。
- ・昔の人のものの考え方や感じ方について知ることができる。

単元の構想

- ・歴史的仮名遣いや今と昔の言葉の意味の違いなどについて知り、古典と現代日本語との共通点や相違点を確認する。
- ・範読、音読、暗唱を通して古典の文章に親しみ、古典に対する児童の興味・関心を高める。



4 成果と課題

(1) 成果

- ・古典の授業についての各自の実践レポートを持ち寄り、ワークショップを行った。1グループ4名という少人数編成のため、活発に意見交流を行うことができた。
- ・公開授業を通して、小学校における古典学習の進め方についての具体的なイメージを持つことができた。

(2) 課題

- ・小学校では「古典が楽しい」と思える授業が求められ、中学校では「読解」中心の授業となり、生徒に「難しく意味の理解が困難なもの」と受け止められがちである。そのギャップをどのように解消していけばよいかは今後の大きな課題である。
- ・小学校では、古典学習に配当される時数が非常に限られている。授業以外に百人一首や俳句・川柳など、日常的に様々な古典にふれる機会をつくっていく必要がある。